

景況レポート

(11月分・情報連絡員79名)

DI値が5ヶ月ぶりに上昇

～製造業・非製造業ともに改善～

【概況】11月の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが11.4%(前月調査8.9%)、「悪化」が43.0%(同46.8%)で、業界全体のDI値は-31.6となり、前月調査と比較して6.3ポイント上回った。

内訳として、製造業全体のDI値は-25.0で前月調査(-34.4)と比較して9.4ポイント上回った。また、非製造業全体のDI値は-36.1で前月調査(-40.4)と比較して4.3ポイント上回った。

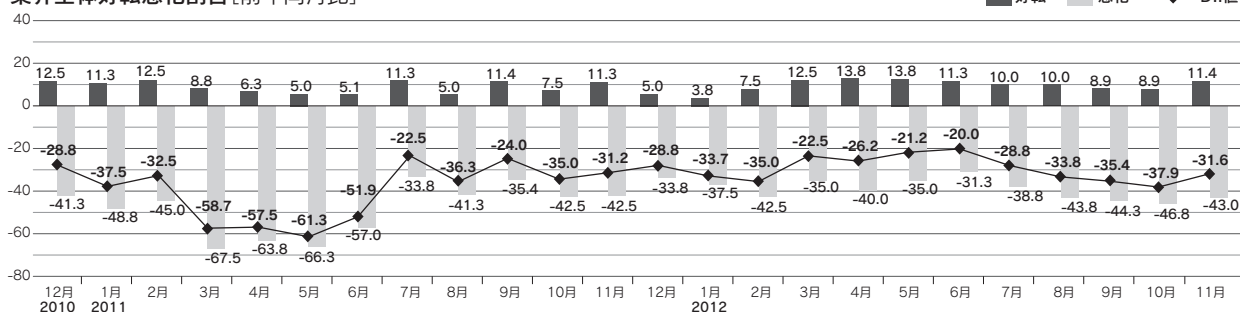
製造業では木材・木製品や生コン、非製造業では建設業で被災地関係の復興需要があり、受注が増加した。一方で、繊維製品では、天候により店頭での売れ行きが不振で、秋冬物の売れ残りなどの在庫を多く抱えている。(回答数：79名 回答率：98.8%)

項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業						
非製造業						

【凡例】
 快晴 30以上
 曇れ 10以上 30未満
 くもり △10以上 △30未満
 雨 △30以上 △10未満
 雷雨 △30以上 △10未満
【天気図の見方】
 前年同月のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index (ティフュージョン・インデックス) の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

業界全体好転悪化割合[前年同月比]



業界の声

清酒製造	10月の清酒出荷量は、1,727,521ℓで前年同月比104.1%となった。タイプ別にみると、吟醸酒が前年同月比132.7%、純米酒が121.8%、本醸造酒が104.7%と増加したが、レギュラー酒は微減で98.1%という状況となった。
繊維製品	ファッション業界全体として、店頭での売れ行きが悪く、各工場への発注も抑えられている。春物生産への移行も遅く、各社とも工場運営に苦しんでいる。
一般製材	前月に引き続き土木用資材、角材製品の受注が順調であり、年内においても売上増加の見通しである。
生コン	11月の出荷数量は前年同月比106.1%。4月～11月累計でも前年比約110.2%で推移。需要の増加に伴い、地域によっては生コン車が不足している。しかし、未だ適正価格に届かない状況が続いている。また、太平洋側の復旧工事で原材料が不足し骨材業界より値上げ要請が出ており、経営を圧迫する懸念材料となる可能性が大きい。
自動車販売	11月の新車販売台数は、登録自動車が1,932台(前年同月比101.3%)、軽自動車が1,882台(同106.0%)で、合計3,814台(同103.5%)であった。
石油販売	ガソリン1ℓあたり145円20銭で前月比1円40銭の下げ。軽油1ℓあたり126円20銭で前月比90銭の下げ、配達灯油は18ℓで1,663円で前月比14円の下げとなった。6週連続の下げで、マージンの回復に至らず依然として苦戦している。
商店街	大型ロードサイド店の出店の影響により、商店街全体の売上が前年同月比-13%と激減した。(鹿角市)
旅行	中国・韓国旅行は減っているが、他国へシフトしており、全体的にみると国内・海外ともに前年同月並みの水準で推移している。
一般建築	民間工事・公共工事とも被災地需要が出てきたせいか、職人・労働者の不足感が出てきた。
トラック	数量、収入、収益とも前年同月に対し10%減少、品目別では自動車部品、自主米がそれぞれ20%減少、他の貨物も微減、事業収益も落ち込んでいる。燃料価格は前月比-80銭、前年同月比-1円。燃料価格の大幅な値上げが予定されており、先行きは不透明である。